

民生・家庭部門におけるエネルギーの消費状況について（追加）

1 民生・家庭部門のエネルギー消費状況について（2010 年度）

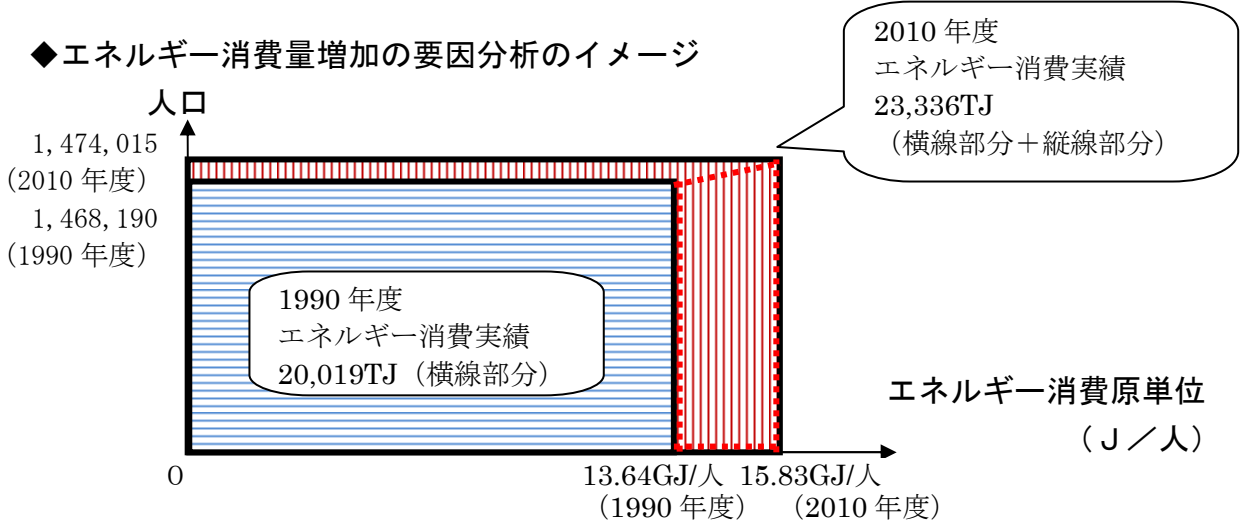
(1) エネルギー消費量増加の要因分析

ア エネルギー消費量と人口による要因分析

◆人口等の推移

	1990 年度	2010 年度	増減割合
人口（人）	1,468,190	1,474,015	0.4%
エネルギー消費原単位（GJ/人）	13.64	15.83	16.1%
エネルギー消費量（TJ）	20,019	23,336	16.6%

◆エネルギー消費量増加の要因分析のイメージ



エネルギー消費の増加量（縦線部分，3,317TJ）への影響は、
 ○一人当たりのエネルギー消費量増加の影響（点線囲み，3,232TJ）が 97.4%，
 ○人口の増加の影響（縦線部分から点線囲みを除く部分，86TJ）が 2.6%である。
 前回確認したとおり，一世帯当たりのエネルギー消費量は減少している。しかし，世帯数が増加し，とりわけ少人数世帯が増加，多人数世帯が減少しているため，一人当たりのエネルギー消費量は増加している。
 その結果，民生・家庭部門全体としてはエネルギー消費量が増加している。

(参考) 世帯人員別世帯数の推移（1990 年を世帯数を 1 とした場合の推移）

